

経営比較分析表（令和5年度決算）

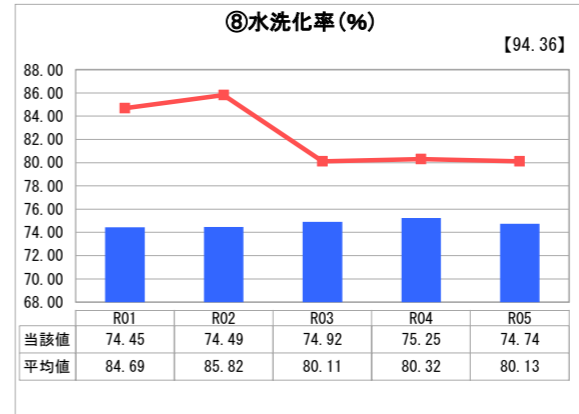
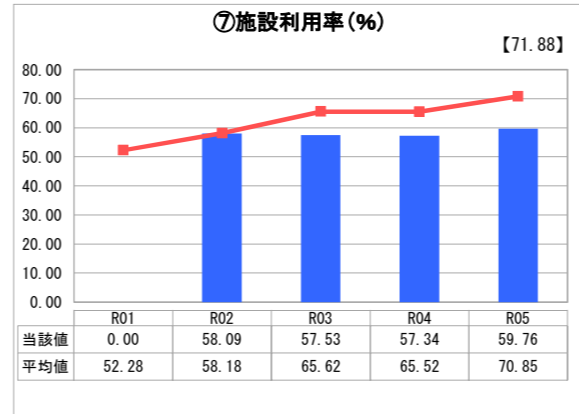
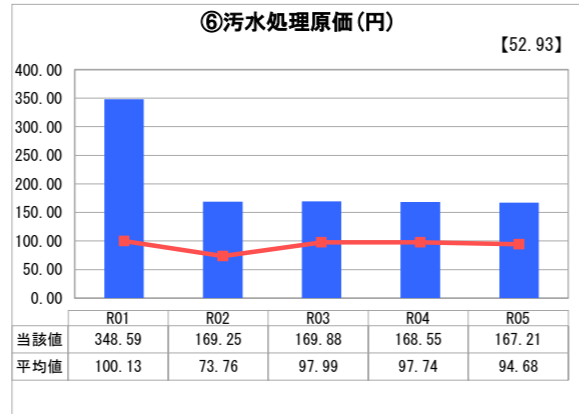
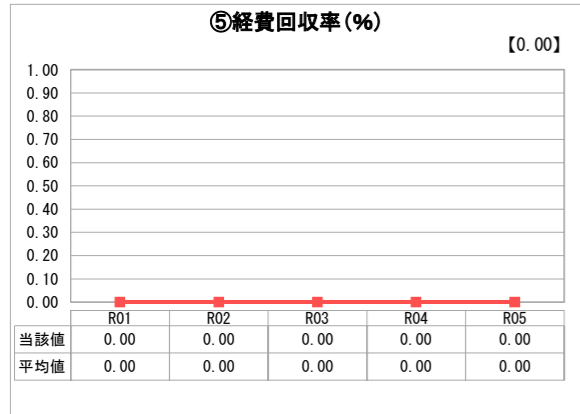
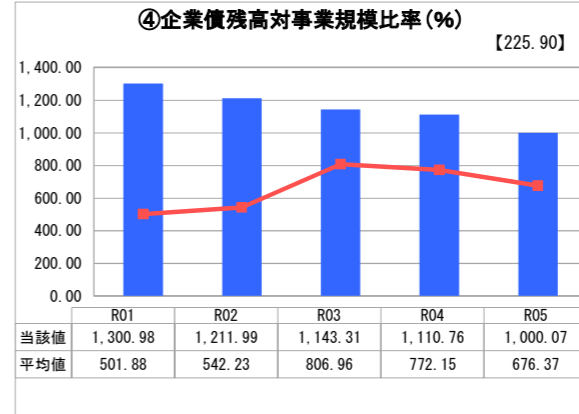
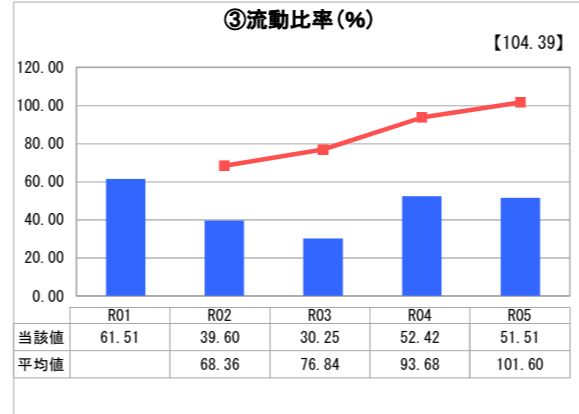
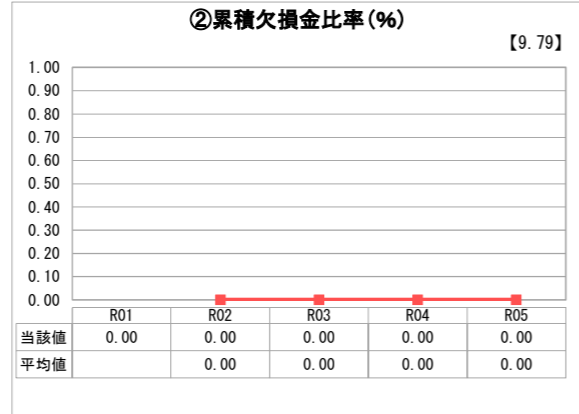
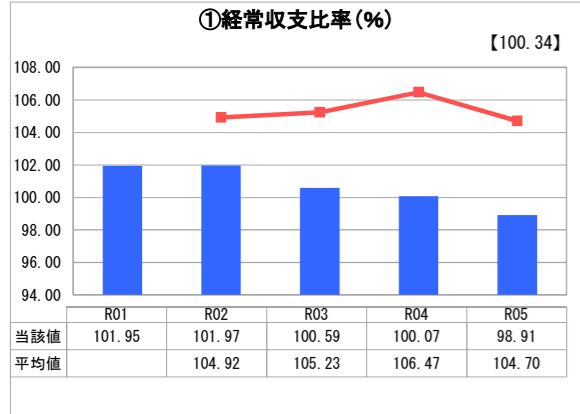
和歌山県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	流域下水道	E2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	82.88	47.19	96.26	0

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
913,297	4,724.68	193.30
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
90,524	23.54	3,845.54

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率について、人件費及び資材価格等の上昇による費用の増加のため前年度から微減し、100%を下回っている。今後も下水道への接続促進等により経営改善を図っていく。

③ 流動比率について、流動負債には建設改良費に充てられた企業債が含まれており、比率が低くなっている（償還の原資は一般会計からの繰入金であり、償還する年度に繰入れている）。

④ 企業債残高対事業規模比率について、供用開始が平成13年と平成20年で比較的経過年数が短く、当初の設備投資に係る企業債残高が多く比率が高くなっている。今後設備の更新を行っていく際には、収益や投資規模等の状況を考慮して行う。

⑥ 汚水処理原価について、処理場の供用開始から経過年数が短く水洗化率は全国平均より低いため、当該指標は全国平均と比較すると高くなる。下水道への接続促進等により汚水処理の効率化を図る。

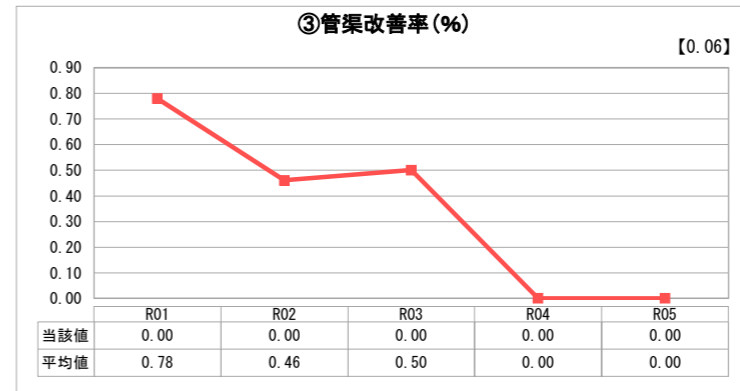
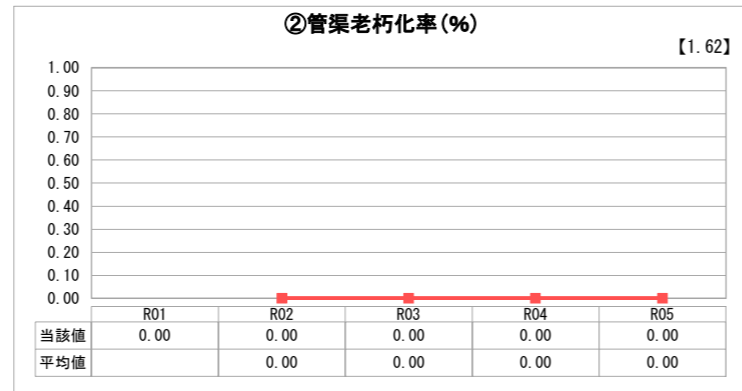
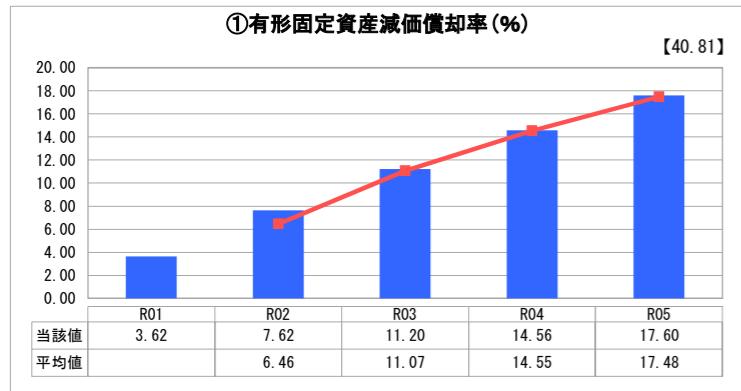
⑦ 施設利用率について、前年度から微増している。

⑧ 水洗化率について、面整備に伴う新たな供用区域が増加しているためあまり向上していないが、今後も関連市町と共に向上に取り組んでいく。

2. 老朽化の状況について

他の流域事業と比べて比較的新しいため、老朽化が大きな問題とはなっていないが、ストックマネジメント計画による計画的改築・修繕に努める。

2. 老朽化の状況



全体総括

本県の流域下水道事業は、処理場供用開始が平成13年及び平成20年で比較的新しいため、単純に類似団体の平均値と比較することはできないが、全国平均値の指標を参考に、計画的な維持管理・運営及び経営改善に向けて取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。